

東北地方整備局職員3名が
令和2年度文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞を受賞

文部科学省では、優れた創意工夫により職域における技術の改善向上に貢献した者を創意工夫功労者として表彰しています。

令和2年度は、東北地方整備局から「雪庇(せっぴ)処理車の改良」を行った3名の職員が受賞しました。

○創意工夫の内容(別添資料参照)

雪庇処理車の後継機の選定及び処理装置等の改良

冬季山間部では、雪崩防止対策として法面よりせりでた雪庇の除去作業を行っています。従来から雪庇処理車によって作業の安全性、効率化を図っていますが、雪庇処理車の老朽化が進み更新が必要になっておりました。

こうした中、雪庇処理車のベースとなる車両が、国内メーカーでの製造を終了しており、更新ができない状況であったため、後継機の選定及び改良について検討が進められました。

<後継機の選定>

処理状況を直視できる様、運転席がリフトアップする機能を有する機種を選定

<改良点>

- ①能力向上のためバケット容量の拡大
- ②安全性向上のためアウトリガ接地面の形状変更
- ③操作性向上のため操作方式変更

○受賞者3名

中島 朋也 企画部 施工企画課 課長補佐
大沼 玄樹 道路部 高規格道路管理センター 管制員
三浦 桂 福島河川国道事務所 東北中央道維持出張所 専門官

○受賞者への伝達及び取材方法について

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、伝達は局内関係者のみで実施します。受賞内容の取材につきましては、電話等によりお願いいたします。

<発表記者会:宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会>

問い合わせ先 国土交通省 東北地方整備局 Tel.022-225-2171(代表)
技術関係以外: 総務部 人事課長 安藤 広晃 (内2251)
技術関係: 企画部 企画課長 神宮 正一 (内3151)

雪庇処理車の改良（概要）

現状と課題

冬季の山間部では雪崩を防止するために雪庇（せっぴ）除去作業を行っているが、雪庇処理車を導入することにより、作業の効率化と安全確保を図っていた。近年、既存車両の老朽化が著しくなり、更新する必要が生じたが、既存の雪庇処理車のベース車両が、排出ガス規制に適合しないため入手が不可能となっていた。



課題解決に向けた取り組み

新しいベース車両を用いた後継機の選定及び改良を行い、雪庇作業の効率化と安全性を維持する。

創意工夫の内容

■ ベース車両の選定

国内外メーカーの市販品から適用可能な機械を調査し、主に鉄鋼リサイクル工場等で使用されている海外の機械を選定した。

■ 技術的改良点

冬期の現場試験によりベース車両の能力評価を行い、より雪庇作業に適した作業を行えるよう検討を行った。また、オペレータ及び道路管理者へのヒアリングを実施し、その結果から、以下のとおりベース車両に対しての改良を行った。

- ・ バケット容量の拡大
- ・ アウトリガ接地面の形状変更
- ・ 操作方式の変更



これらの改良により、既存車両以上の作業能力を実現することができた。また、本ベース車両を適用することで、運転席のリフトアップが可能となり、これまでの上向き作業によるオペレータの苦渋を解消することができた。

